

アフガニスタンの子どもと教育

中道貞子
(元奈良女子大学附属中等教育学校・チャプダラ校支援の会)

アフガニスタンという国について

アフガニスタンは、周囲を6つの国に囲まれた海のない国。パシュトゥーン人(42%)・タジク人(27%)・ハズラ人(9%)などからなる多民族国家。公用語は、ダリ語・パシュトゥーン語。宗教はイスラム教(スンニー派80%・シーア派19%)。2001年、23年間に及ぶ長い戦争が終わり、平和になるかのように見えたが、今も不安定。

公立学校は大学まで、すべて授業料は無料。1~9年生までが義務教育。基本的には男女別学、男女がいる学校でもクラスは別が基本。カブールでは生徒数数千人の学校も多く、2~3部制(中には4部制も)なので、生徒が学校で学習する時間は短い。

私とアフガニスタンとの関わり

- ◎ 2002年8月 女性教員支援(5女子大学コンソーシアム)事前調査団の一員として初めてアフガニスタン訪問
- ◎ 2003年3月・8月 JICA短期専門家として理科教育支援
- ◎ 2004年 バーミアンでの学校建設をセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンに依頼
- ◎ 2005年10月 チャプダラ校校舎完成
- ◎ 2006年~10年 チャプダラ校訪問を主としたアフガニスタン訪問を続けている。

チャプダラ校のこと

校舎もなく、強い日ざしと埃の舞う丘の上で勉強していたチャプダラ校の子ども達。校舎建設費を寄付して、2005年に新しい学校の建物ができた。今も、教師・生徒それぞれがたくさんの問題を抱え、施設設備も不十分だが、子ども達は学校が大好き。

アリフ君支援で学んだこと

2005年10月、オープニングセレモニーの日、両松葉杖をつき、脚を引きずって歩くアリフ君に出会った。当時25歳。会った時は、大腿骨が完全に骨盤にくっついてしまっていて、脚を動かすことができなかった。

昨年1月、多くの人のご厚意に支えられ、来日して手術を受けた。アリフ君支援を機に、「チャプダラ校支援の会」を立ち上げた。アリフ君の就学支援、チャプダラ校の文房具をはじめとする教具や教材支援など、貧しいバーミアンの学校ではまだまだ支援が必要。今後も、何ができるかを考え、単に「物を寄付する」ということではなく、彼らが自立していける支援とは何かを考え続けていきたいと思っている。

当日は、上記のような話に加えて、バーミアンの美しい風景やカブールの町の様子を紹介した。